

アライグマにご注意ください



市内において、アライグマによる農作物などの被害が発生しています。同様に、近隣自治体でも分布拡大や個体数増加が確認されており、それに伴う被害増加が懸念されています。少しでも早く捕獲を進めて、被害を防ぎましょう。

アライグマ増加の背景

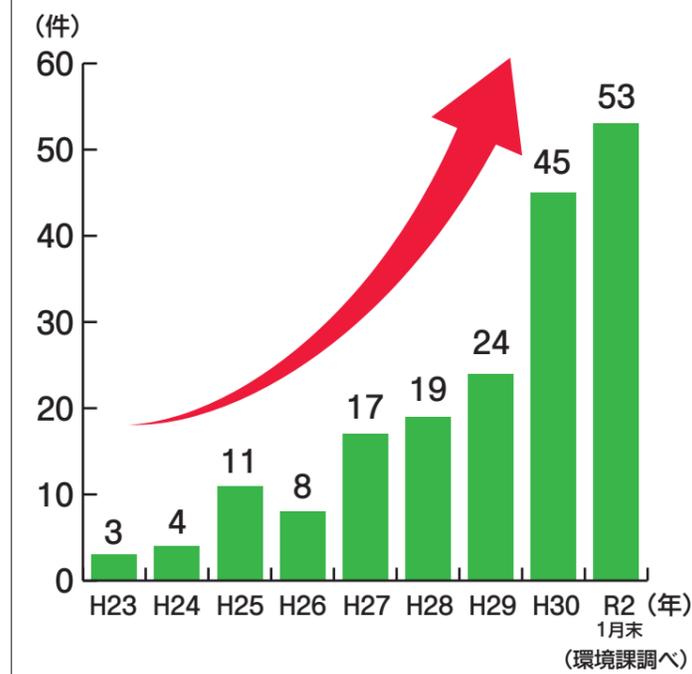
アライグマは、北アメリカ原産の野生動物です。日本では1970年代にアライグマを題材としたアニメが放送され、ペットとして多くのアライグマが輸入されるようになりました。

しかし、気性が荒いため、飼い主が飼いきれなくなると野外に放したり、手先が器用なために飼育おりから逃亡したりするケースが

続出しました。また、繁殖力が旺盛で日本には天敵がいらないことから自然繁殖し、農作物の食害や家屋への侵入などの被害が深刻化しています。

本市でも、アライグマに関する相談や捕獲数が増加しています。平成23年は3件の捕獲数に対し、令和2年1月末の統計では53件と急激に増えています。生息数の拡大に伴い、今後、日々の暮らしに悪影響を与えることが予想されます。

市内におけるアライグマ捕獲数の推移



アライグマの特徴

● 形態

頭から胴までの長さ(成獣の場合)が40cmから60cmほどあります。体重は4kgから10kgほどです。大きい個体だと、10kgを超えるものもいます。尾が長く、リング状のしま模様があります。



● 顔

眉間に黒い筋があり、ひげは白く目立ちます。耳が大きく、白い縁取りがあります。



● 繁殖

出産時期は春で、4月ごろにピークを迎えます。通常3頭から6頭の子どもを出産し、春から秋にかけて母親と子どもは行動を共にします。屋根裏や木のうろ(洞窟状の空間)などで繁殖します。

(イラスト：農林水産省提供)

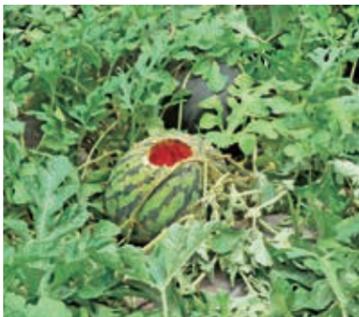
● 足跡

指が長く、足跡には5本指(人の手形に似ています)がつかます。指の先端に、比較的短い爪痕が残ることがあります。



● 生態

アライグマは、雑食性で、市内では果実や野菜などの食害が確認されています。とりわけスイカや柿、梨など糖度の高いものを好みます。主に夜行性ですが、昼間にも活動します。移動には河川や水路、側溝などの水際をよく使い、一つの個体が複数のねぐらを持ち、えさ場に近い場所を転々としています。



アライグマによって食べられたスイカ(左)と梨(右) (写真：県農業技術研究センター提供)

被害を防ぐには

休息、繁殖できる場所をなくす

アライグマは建物の中に休息場所を求めることが多く、空き家や倉庫などの人けのない場所を好みます。日本家屋は、風通しを良くするため隙間が多く、アライグマに狙われやすい建物です。アライグマはわずかな隙間でも侵入することができます。通風口や屋根と壁の隙間などをふさぎ、侵入経路を断つことが大切です。

食べ物を与えない

私たちの生活の中には、無意識のうちにアライグマのえさとなっているものがたくさんあります。収穫しない野菜や果物、生ごみなどを野外に放置するとアライグマを引き寄せることとなります。

また、栄養状態が良くなることで、個体数の増加にもつながります。ごみは放置せず、ふたつきのごみ箱に入れ、食べる予定のない柿などの果物はあらかじめ収穫するなど、えさとなる食べ物を残さない対策をとることが大切です。

アライグマの捕獲

アライグマを捕獲するために、市では捕獲器を設置しています。設置を希望される方は環境課までご連絡ください。なお、アライグマ以外の野生鳥獣(ハクビシンやタヌキなど)は市では捕獲できませんので、お困りの場合は、(一社)埼玉県ペストコントロール協会 ☎048-854-2890にご相談ください。

▼捕獲器の設置

月々金曜日(祝日などを除く)に設置します。捕獲できない場合でも、金曜日には回収に伺います。※設置期間はおおむね3週間

▼ご用意いただくもの

捕獲に必要なえさ(果物など)は依頼者に用意していただきます。

野生動物を見かけたら

野生動物は凶暴で、病気に感染している可能性もあります。

動物が捕獲された場合、おやみに近づいたり触れたりせず、速やかに環境課までご連絡ください。

▼問い合わせ 同環境政策担当 ☎556-9530